

西方音楽館友の会会員募集

A 会員 年会費 (4,000 円) B 会員 年会費 (10,000 円)
C 会員 年会費 (15,000 円) D 会員 年会費 (20,000 円)

西方音楽館友の会運営委員／
中新井紀子(西方音楽館館長)、岡田龍之介(チェンバロ奏者)、小川和隆(ギタリスト)、
木下大輔(作曲家)、高田良久(医師、下野楽遊代表)、中新井諒子(国立音大卒、クラリネット)、
永田美穂(音楽学)、山村多恵子(オカリナ奏者)

コンサートは、友の会会費で支えられています。ご支援いただけますと大変ありがたいです。

西方音楽館友の会主催コンサート

(カッコ内は友の会主催番号)

「春のもよおし」



- 3月21日(土) 14:30～(第145回)
宇都宮短期大学音楽科学生&宇都宮大学共同教育学部学生によるコンサート
石川真梨亜:ピアノ 上岡花恋:サクソ 岸美紗稀:フルート
葛西真由:フルート 岡安光穂:ヴァイオリン 寺田ほのか:ヴァイオリン
新井啓泰:ピアノ 藤野凌伍:作曲・ピアノ
- 4月4日(土) 15:30～(第146回)
久元祐子 ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全曲演奏会シリーズ第4回
- 4月19日(日) 15:30～(第147回)
国際古楽コンクール<山梨>入賞記念コンサート
イギリス音楽の変遷 ～リュートソングからヘンデルのカンタータまで～
小林恵:ソプラノ 石川友香理:チェンバロ

「ワルターモデル・フォルテピアノを用いた4つのコンサート」



- 5月2日(土) 15:30～(第148回)(前日5月1日 レッスン)
三人のバッハが紡いだ新しい風～古典派への架け橋 - 三つの個性が描いた新時代～七條恵子:フォルテピアノ
- 6月13日(土) 15:30～(第149回)
ベートーヴェン歌曲 ～近代的歌曲の萌芽～
水越 啓 テノール 小林 道夫 ワルターモデル・フォルテピアノ、ニューヨークスタインウェイB
- 7月12日(日) 15:30～(第150回)(前日7月11日 レッスン)
川口成彦 フォルテピアノリサイタル～スペインなひととき～
- 8月23日(日) 14:30～(第151回)
見て、聴いて、触れる鍵盤楽器～チェンバロ・フォルテピアノ・ピアノ～
加藤美季:チェンバロ、ワルターモデル・フォルテピアノ、ニューヨークスタインウェイB
同日16:30～ 3台の鍵盤楽器に触れられる体験コーナー

「2026年度後半期のコンサート」

- 10月18日(日) 15:30～(第152回)
渡邊順生チェンバロリサイタル J.S.バッハ:パルティータ
 - 11月28日(土) 15:30～(第153回)
廣海史帆(ヴァイオリン)&中川岳(チェンバロ)コンサート
 - 12月26日(土) 15:30～(第154回)
ムジカ・レセルヴァータ コンサート
- 2027年
- 1月30日(土) 15:30～(第155回)
小川和隆&松澤結子 ギターデュオ コンサート
 - 2月28日(日) 15:30～(第156回)
J.S.バッハ ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会No.3
裕美穂子:ヴァイオリン 武久源造:ジルバーマンピアノ

こ・ぼ・れ・話

思うところがあれば、
歩み続けること。
時折、立ち止まっても良いから、
歩み続けること。
きっと、何かが見えてくる。

中新井紀子



2026. 1.

木洩れ陽の窓から No. 34

西方音楽館友の会会報

編集・発行人 中新井紀子

西方音楽館

322-0601

322-0601 栃木県栃木市西方町金崎342-1 TEL 0282-92-2815 Web <http://wmusic.jp>

ホール = 超楽器

中新井紀子

「いい音が響いてほしい」

京都コンサートホールは、これだけを願い、設計しました。コンサートホールとは、それ自体が響きを生み出すひとつの大きな楽器です。それは「Hyper Instrument(超楽器)」と呼びうる囲われた空間だといえます。

～京都コンサートホールを設計した磯崎新の言葉(「超楽器」 p.6～

建物は生きものである。時間とともに変化し、成長し、熟成していく。・・・できたてのホールは見えない音を消化する内臓をまだ十分に活用しきれていない。設計者の意図を現実化し、さらにそれを超えるには、演奏家や観客の、体温と呼吸の研磨が不可欠なのだ。

～堀江敏幸(「超楽器」 p.31)～

私は 20代後半から 30代にかけて、パイプオルガンに魅了され、オルガンが設置されているホール、教会、私設の建物等々を訪ね歩いていました。オルガンの響きは、オルガンが置かれている空間の良しあし、つまりオルガンに合っている空間か否かに大きく左右されるということを如実に体験しました。つまり、オルガンとそれが置かれる空間は、一体として設計されるべき、と強く思いました。

京都コンサートホール開館三十周年を記念して発行された「超楽器 ふるえる空間=コンサートホールへ」(鷲田清一・高野裕子編 世界思想社)を読んで、ホールも楽器(楽器を超えたところに存在する楽器)であることを再度確認できました。

規模の大きさは違いますが、西方音楽館にもその縮小版として、共通するものがあると思います。西方音楽館「木洩れ陽ホール」と「馬酔木(あしび)の蔵」の音響設計は、永田音響設計創設者の故永田穂氏。京都ホールは、後を継いだ永田音響設計の豊田泰久氏。数々のホールの音響を手掛けた永田穂氏ですが、西方音楽館に関しては、遮音の完璧な要塞のようなホールではなく、鳥の鳴き声や自然が感じられ、温かみのある音空間を目指し、小さな音や繊細な音が、とても美しく聴こえるホールとなりました。

駐車場から、木々の間の短い小径を抜け、更に進むと西方音楽館「木洩れ陽ホール」と「馬酔木(あしび)の蔵」が、目に優しい緑の中に現れます。

木洩れ陽ホールでコンサートを聴く前や休憩時には、木々を眺めながら、コーヒーやお茶や手作りケーキを手に、ベンチであるいは立ちながら、あるいは「馬酔木の蔵」の中で、独り静かにあるいは会話を弾ませながら、ひと時を過ごすことができます。

そして、コンサートでは演奏家が渾身の想いを込めて音楽を奏で、演奏者の息づかいや、弦の擦れまで聞えるアットホームな空間で、聴衆は豊かな音楽に身を委ねます。

このような自然と聴衆と演奏家に育てられてきた西方音楽館。これからも「Hyper Instrument(超楽器)」として、成長、成熟していきたいと思っております。